

| | | | | | | | |
|-------|------|-----|-----------|------|-----|----------|------------|
| 自律・責任 | 自尊感情 | 協調性 | コミュニケーション | 思いやり | 主体性 | 特別な支援の充実 | 市町教育委員会の取組 |
|-------|------|-----|-----------|------|-----|----------|------------|

協調性を育成するための取組

尾道市立山波小学校 校長名：宮 雅彦【施設泊】国立吉備青少年自然の家

キーワード：目標のリンク・作戦タイム・共感的な人間関係

1 体験活動の概要

(1) 3泊4日体験活動プログラム設定時の工夫

- 子供たちが主体的に「やってみたい」、「楽しそう」と思えるような日常生活では味わえない体験活動を取り入れる。
- 主体的に子供たちが考えて行動できるように、時間のゆとりを持たせたスケジュールにする。
- 目標を設定し、課題を解決する活動にする。
- 体験活動と日常生活をつなげる視点で事前の学習を充実させる。



| | 午前 | 午後 | 夜 |
|-----|------------------|------------|-----------|
| 1日目 | | マウンテンバイク | 家族への手紙 |
| 2日目 | カッター活動 | 作戦タイム 野外炊事 | 家族からの手紙 |
| 3日目 | ウォークラリー (約 12km) | | キャンプファイヤー |
| 4日目 | 振り返り・焼き板工作 | 退所 | |

(2) 学校教育目標と学級目標と体験活動のねらいのリンク

学校教育目標「自ら学び 心豊かに たくましく生きる 山波っ子の育成」
めざす子ども像「話を聞く子・伝える子」
○よく考え、学ぶ子 ○思いやりのある子 ○明るくたくましい子

学級目標「笑う門には福来る」
「一つの目標に向かって最大限の力を出していこう」
○メリハリ ○支持的風土 ○規範意識を高める
～結果も過程も大事・みんなでクリアしていこう・何のためのルールなのか～

「いきいきスクール」の目標

豊かな自然の中で自然体験学習をすることで、自分たちの生活や自然環境との関わりについて考えるとともに、長期宿泊による生活時間を活用し、規律を守る・責任を果たす・協力する等、自立に必要な知識・技能や生活習慣を身に付ける。

事前学習のポイント：目標のリンク

日頃と異なる生活環境で、新たな発見をすることも大事なねらいの一つですが、より重要なことは、日常の生活に戻った時に、どのような姿になって欲しいかを考えて、体験活動のねらいを定めることです。

山波小学校では、体験活動が終わった後も、目指すべき子供たちの姿になるように、目標を設定することが必要と考え、学校教育目標・学級（学年）目標とリンクさせています。

目標を達成するためには、次のことにも留意しました。

- 計画の段階から、児童一人一人が目標をもって、主体的に活動できるよう、指導・支援を行う。
- 集団宿泊の意義や、協力することの大切さ、必要性を指導する。また、活動後も行事ごとに、振り返り活動を行い、活動の充実感を体感させる。
- 児童の間で協力して活動する場面を充実させ、お互いの良さを実感させ、自己肯定感を高める。

2 実践の内容

(1) カッター活動

湖の上で、櫂を使ってカッターを漕ぎ進め、目標地点を目指す活動です。かけ声に合わせて全員が櫂を操作しなければなかなか進めません。こういう活動だからこそ、友達同士での励まし合いが自然と生まれました。



カッター活動での児童の感想

- 最初は思うようにカッターを進めることができなかつたけど、少しずつみんなと気持ちが一つになり、大きな声で「オー、エス」と漕ぎ、上手く進めることができるようになった。
- 漕ぐことはしんどくて、あきらめそうになったけど、友達が励ましてくれたので最後まで漕ぐことができた。

(2) ウォークラリー

午前と午後の時間を使う約12kmのウォークラリーは、普段ではできない体験です。子供たちだけで自然の中に入り、協力したり励まし合ったりしなければ、ゴールにたどり着くことはできません。その分、やりきった時の達成感を味わうことができます。

ウォークラリーでの児童の感想

- 道に迷ってしまったときはすごく不安になったけど、グループの友達と協力できて一緒だったから最後まで歩くことができた。
- 足が痛くて歩くのがつらくなったときに、友達が代わる代わりおんぶをしてくれた。友達に感謝の気持ちでいっぱいだった。

(3) 作戦タイム

活動と活動の切り替えの時間を、作戦タイムとして、前の活動から学んだことを、次の活動に生かすように工夫しました。カッター活動やウォークラリー、野外炊事等、それぞれの活動は違っても協力して実施するというテーマは同じです。作戦タイムでは、それらを意識させました。

例えば、カッター活動を通して、「自分一人でがんばっても上手くいかない。力を合わせる、声をかけ合うことで上手く漕ぐことができる。」ということ学んだ後の作戦タイムでは、次の野外炊事の目標を話し合いました。

その作戦タイムでは、「グループ全員が最後まで協力して一番おいしいカレーを作る」、「自分の仕事に責任を持ってカレー作りをする」、「お互いに声をかけあって、楽しくカレーを作る」等、子供たちは友達と協力していく目標を立てていました。

3泊4日の体験活動では、主体的に考え行動する時間を確保できるので、意図的に日程を詰め過ぎず、時間をしっかり使って、子供たちが達成感を感じられるようにしています。

体験活動当日のポイント：作戦タイムで、ねらいに近づける

タイミングを逃さず、子供たちが達成感を感じられるようにすることで、子供たちはさらに自信を持って取組を進めることができます。うまくできなかったことを出し合い、次にどうすれば良いかということまでを、出し合い話し合うことで、さらに協調性が高まります。

このように、常に目標を貫き意識させて取組を進めることで、学校に帰っても、子供たちの中には「楽しかった」という思いだけでなく、課題に対して、どのように考えたか、協力したか、課題を解決していったかという成功体験が、記憶に残っていきます。

3 児童実態を踏まえた事前学習

「新しいことに挑戦したい」という意欲を持つ児童もいますが、その一方で、「失敗したら笑われる」、「恥ずかしい」などの感情から積極的に行動することに躊躇してしまう児童もいます。そのため、年度当初から、学級活動などの時間や日頃の学校での生活などの機会をとらえて、これらのマイナスの思いを小さくして、挑戦した失敗は恥ずかしくないという思いを育むように取り組みました。

事前学習のポイント：目指す姿の明確化

山波小学校では、学校でできる人間関係づくりのプログラムを、学級活動の時間を使って学習するなど、体験活動時の子供たちの姿を想定し、事前に身に付けておかなければならない力を、子供たちに意識させて身に付けさせようとしています。このような日頃からの活動があるからこそ、3泊4日で子供たち同士が協力することができるのです。

さらにステップアップ!!



小学校学習指導要領解説特別活動編には、「集団の一員として、なすことによって学ぶ活動を通して、自主的、実践的な態度を身に付ける活動である」と特別活動の教育的意義の一つとして示してあります。山波小学校ではこの意義を踏まえ、「結果も過程も大事」と学級目標に含み、プロセスを重視しています。子供たちが失敗したことをプラスに変換しているかどうかを見ていったり意味づけていったりすることが重要です。

引用：小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成20年8月）

【事前指導の際の特別活動（学級活動）の学習指導案（主に本時の抜粋）】

本時のねらい

- 恥ずかしがらずに友達と手をつなぎ、課題解決の方法を考え、よりよい関係づくりのために話し合うことができる。

本時の展開

| | 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指す児童の姿 評価方法 |
|----|--|---|---|
| 導入 | 1 ウォーミングアップのエクササイズをする。 2 手をつないだ感想を交流する。 3 本時の目標を確認する。 | ・手をつなぐことに慣れさせる。 ・最初の気持ちを出させ1時間の変化を感じさせる。 ・本時のめあてを提示し、活動の見通しをもたせる。 | |
| | 【めあて】「手つなぎゲーム」で目標タイムを出す方法を話し合おう。 | | |
| 展開 | 4 グループ対抗「手つなぎゲーム」をする。 ・5分間のグループタイムをもち目標タイムと方法を話し合う。 ・話し合いが終わったグループは練習をする。 ・それぞれのグループで1回ずつチャレンジをする。 5 全員で「手つなぎゲーム」をする。 ・目標タイムと方法について話し合う。 ・目標タイムに向けて何度もチャレンジする。 | ・活動のきまりとゲームのルールを確認する。 活動のきまり ・設定時刻が来たら静かに待つ。 ・友達を励ます言葉がけをする。 ゲームのルール ・絶対につないだ手を離さない。 ・どうすれば早くできるのか他のグループの方法を参考にして考えさせる。 ・どのグループも解決策を思いつかないようであれば、方法を教える。 | |
| 終末 | 6 本時のまとめ・振り返りをする。 ・手をつなぐこと、目標達成のための話し合いについて振り返る。 【まとめ】みんなで決めた目標を達成できると、喜びを分かち合える。 ・自分が生活の中で頑張っていくことを決める。 | ・最初の気持ちと、みんなで決めた目標を達成できた際の気持ちを比べ、変化を実感させる。 ・互いの頑張りについて励まし合えるようにする。 | 【思考・判断・実践】 ・グループでの話し合いを通して課題解決の方法を考え、どのように生活に生かしていきたいかめあてを考え、実践している。 (観察・振り返り) |

事前学習—体験活動当日—事後学習における取組ポイント：共感的な人間関係の育成

子供たちの状況は日々変化をしています。児童同士の関わりを深めていくには、成長のプロセス全体の中で、多面的・多角的かつ継続的に理解を進めていく必要があります。担任だけの見立てや特定の情報のみの把握にならないよう、複数の教職員が様々な角度から、子供たちの状況を把握することが大切です。

山波小学校は、学校教育目標・学級目標・体験活動の目標とがつながっているため、適切に情報共有できる仕組みとなっています。

3 体験活動のねらいに基づいた児童と保護者の感想

(1) 児童の感想

- 3泊4日を通して今まであまり仲良くなかった友達と話すことができるようになりました。そして、その友達の面白さに気付くことができました。
- 家族と離れて生活したことで、今まであまり気付いていなかった家族のありがたさや大切さに気付くことができました。
- いきいきスクールが学級の絆を深めるきっかけになりました。そして、学級の友達や先生をととても信頼できるようになりました。



(2) 保護者の感想

- 班長としてみんなの前で、あいさつをしたり、みんなをまとめたりするのは恥ずかしがっていたみたいです。しかし、体験活動が終わった時にはやってよかったと感じたようです。それ以降は、いろんなことに積極的に挑戦したり、人前で発表したりすることができるようになりました。自分に自信が持てるようになったのだと思います。
- 家に帰るとたくさん話を聞かせてくれました。初めてのことばかりだったのですが、失敗しながらも友達と協力して、自分たちの力でやり遂げるという経験ができ、自信につながったようです。
- 友達との仲もさらに深まり、物事に対して、楽しみながら前向きに取り組むようになったと感じています。